



## 第47回東海地区公立小中学校事務研究大会刈谷大会報告

### 大会テーマ

子どもたちの豊かな育ちを実現する学校事務  
—刈谷へ行こまい！ 語ろう 未来へつなげる学校事務を！—

### 期 日

平成28年2月5日（金）

### 会 場

全体会会場 刈谷市総合文化センター  
分科会会場 第1分科会・第2分科会 刈谷市総合文化センター  
第3分科会・第4分科会 刈谷市産業振興センター

### 参 加 者

1,296名（資料参加者を含む）



刈谷市総合文化センター

## お礼のことば

第47回東海地区公立小中学校事務研究大会

実行委員長 山本 昌二

第47回東海地区公立小中学校事務研究大会刈谷大会が、東海4県の会員の皆様をはじめ多くの参加者のご支援により盛大に開催できましたことを心からお礼申し上げます。

また、本研究大会開催にあたりご後援をいただきました文部科学省、東海4県の教育委員会をはじめ教育関係機関・団体の皆様にも感謝申し上げます。

刈谷大会は、刈谷市総合文化センター、刈谷市産業振興センターという刈谷駅を挟んで徒歩7分圏内というコンパクトな会場設定で、多くの方にご参加いただきました。当日は、2月の寒い時期とは言え天候にも恵まれ、心配していた交通機関の乱れもなく、開会式が始められましたことに実行委員会一同ホッとしたことを覚えております。

午前中ご講演いただきました、デンソー工業学園長 松井茂樹様の人材育成のお話は、お人柄のにじみ出たやさしい語り口の中にも、企業としての人材育成の厳しい一面や本人のやる気をいかに引き出すか、私たちが直面している世代交代への一つのアプローチを示していただけたのではないかと思います。また、午後からの分科会では、それぞれのテーマに沿った提案、意見交換が行われました。東海4県のそれぞれが抱える課題等を共有し、活発な分科会となり、各県の明日へ向かう指針が示されたものと思います。

最後になりますが、本大会での成果が生かされ、次回第48回可見大会につながり、大輪の薔薇となって可見の地で花開きますことを願って、お礼のことばを締めさせていただきます。ありがとうございました。

## 開会式



東海地区公立小中学校事務研究会 会長 藤垣昌也による主催者あいさつの後、4名のご来賓からご祝辞をいただきました。

刈谷市長 竹中良則 様

愛知県教育委員会 教育長 野村道朗 様

愛知県都市教育長協議会 会長 加藤正俊 様

愛知県小中学校長会 会長 加藤千博 様

また、会場内には多くのご来賓にご臨席いただきました。

## 講演会



ものづくりを支える（株）デンソーの人材育成  
～「自ら学び・考え・挑戦」できる人材を求めて～

講師：デンソー工業学園  
学園長 松井茂樹 氏



## 引継式



刈谷大会の山本昌二実行委員長から、次回可児大会の鈴木斉実行委員長へ、刈谷市の花であるカキツバタの手作り花束が手渡されました。

キーワードは「つながり」

### 東海大会の位置づけ

「研究推進のキーワードである『つながり』のもとに研究経過・成果報告や、実践交流の共有を行い、明日からの実践のヒントを得ることのできる大会」



# 分科会



未来の自分をデザインしよう  
～私の研修ロードマップ～

@総合文化センター大ホール (571名参加)

第1分科会 (愛知県：研修部)



豊かな学びを支える学校事務職員の役割  
～学校徴収金事務から、  
今後の学校事務のあり方を考える～

@総合文化センター小ホール (211名参加)

第2分科会 (三重県：松坂地区)



わたしたち  
加茂郡の「あしあと」につながる  
ひとりの一歩  
“個人研究のススメ”で事務力UP!

@産業振興センターあいおいホール(166名参加)

第3分科会 (岐阜県：加茂郡)



輝け 子どもの笑顔のために  
～研究から実践へ  
スクールマネージャーへの道～

@産業振興センター小ホール(235名参加)

第4分科会 (静岡県：志太地区)

刈谷大会ホームページのご案内

<http://toukaijimuken.sakura.ne.jp/taikai/kariya/index.html>

後日、「研究のまとめ」を掲載します。(平成28年5月31日(火)まで閲覧できます。)

# 分科会参加者報告

## 第1分科会（愛知県）

### 未来の自分をデザインしよう ～私の研修ロードマップ～

愛知事務研研修部から自主研修体系9次案やこれに基づく研修講座など、これまでの人材育成の成果と課題を検討し、学校事務職員自身の主体性に着目した研修ロードマップの提案がありました。京都教育大学 竺沙知章教授からは、ロードマップをもとにすぐに研修プログラムができるものではなく、主体性においては自分自身のマップを作り随時更新していくことが必要であるとの助言をいただきました。

続いて、シンポジウムが行われました。豊橋市教育委員会教育長 加藤正俊氏からは、ロードマップは自己啓発ガイドであるとともに、体制整備として評価と合わせてチャレンジを促す仕組みが必要という示唆がありました。竺沙教授からは学校づくりを考えられる優れた行政職員であることが大前提であり、核となる教育への理解と実現していくことを実感していくように



するOJTが求められるという指摘をいただきました。

愛知事務研 風岡治副会長は、ロードマップには教員との協働においてどんな能力を発揮するか、当事者意識を持つことが加味されなければならないこと、さらにトータルプランを考える中で、内的要因として共同実施での人事異動や職位・職階を整理し、外的要因として研修企画検討委員会再設置など関係者への働きかけが不可欠と述べました。

世代交代が大きく進展したなか、新しい学校事務職員制度のもと、学校事務職員の成長を図る研修は、学びの主体性を引き出す上でも研修体系の整備が必要であり、その一歩となる分科会でした。

（愛知支部 常任理事 名古屋市立萩山中学校 榊原 功剛）

## 第2分科会（三重県）

### 豊かな学びを支える学校事務職員の役割 ～学校徴収金事務から、今後の学校事務のあり方を考える～

学校徴収金の取り組みを研究の切り口とした、望ましい学校財務・組織の有効活用のあり方を探る研究発表でした。松阪市や多気郡の共同実施協議会における、徴収金マニュアル作成や就学援助費充当制度の実現といった組織を活用した成果が述べられました。



また、校内実践の成果として、事務職員がキーパーソンとなった校内体制づくりや予算委員会を活用した学校徴収金事務について報告されました。上記実践の検証では、小は校内予算委員会、大は共同実施協議会や教育委員会といった様々な組織との連携によって課題解決につながったことで、組織を活用することの有効性にあらためて気づくことができたとのことでした。発表後のグループ討議では、「学校徴収金」「組織

の活用」「望ましい学校財務」について参加者同士で意見交換がされました。ある参加者からは、教職員間のコミュニケーションや情報共有が重要であるといった意見や、また別の参加者からは校内での教材選定についての貴重な実践を聞くことができ、発表者・参加者共に有意義な時間となりました。助言者からは、学校徴収金の取り組みは事務職員が中心的役割を担うことで成果につながっている。今後は事務職員も「もの言う事務職員」となり、教員をはじめ多くの職員とともに学校や地域を盛り立ててほしいとのエールが贈られました。

(三重支部 常任理事 松阪市立第三小学校 中村 優)

### 第3分科会報告

#### わたしたち 加茂郡の「あしあと」につながるひとりの一歩 “個人研究のススメ”で事務力UP！

加茂郡は7ヶ町村に28の小中学校が点在し、28名の事務職員が配置されています。行政区が異なることや研修会の回数が年3～4回と少ないこと。また、小規模校が多いことから、初任者や経験年数の浅い事務職員が配置される傾向にあるなどの諸事情があります。

これらの現状などから、研究主題を「事務主任として学校運営に主体的に参画しよう - 情報の共有を通して、学校事務の専門性を高めよう - 」と設定し、情報の共有と研修機会の確保のためにグループウェアを活用すること、事務の専門性を向上させるために個人研究をベースにしたグループ別研究を行うこと、を中心に研究実践に取り組んできたことが発表されました。

「あしあとコミュニティ」と名付けられたグループウェアの活用では、利用促進のための手立てが工夫され、全員の交流が活発になり、事務事例の共有などにより郡内で統一した事務が提供できるようになるなどの成果がありました。

個人研究をベースにしたグループ別研究では、年度当初に各自で1年間かけて追究する取組内容を決定し、同じような内容で取り組む部員とグループを作り、作成した取り組みシートをもとにグループで交流をしながら研究を進めます。中間発



表や成果発表で取り組みの成果や課題をまとめたり、他の部員の発表を聞いて仕事に役立つ情報を得ることができ、多くの成果がありました。また、研究の成果を「あしあと」として確実に残していくシステムができており、将来につながっていく研究実践になっていることがわかりました。

分科会は参加者を25グループに分け、途中、グループ交流やグループ演習を取り入れながら和やかな雰囲気が進められ、発表者と参加者が一体感のある盛り上がった分科会となりました。特に、28名中14名が現在の勤務校が1～2校目という経験の浅い方が多いにも関わらず、グループでの司会を臆することなく堂々と務められている姿に頼もしさを感じました。個人研究の実践によって個々の研修意欲が高められ、モチベーションが維持されているのだなと実感することができました。

(岐阜支部 常任理事 高山市立日枝中学校 肥垣津 雅志)

#### 第4分科会



### 輝け 子どもの笑顔のために ～研究から実践へ スクールマネージャーへの道～

静岡県中央部に位置する志太地区は、島田市・藤枝市・焼津市の3市で構成されており、人事交流が盛んに行われているようです。

この3市はそれぞれ処務規程が定められています。ただし、事務処理の方法においては、どの市も同じように定められているため、市をまたいだ人事異動が行われてもスムーズに事務処理が進むとのことでした。

研究発表の中で、数回、会場アンケートが実施されました。その方法は、受付で配布された資料が3色に分かれており、司会者からの問いに該当する色を挙げて回答するというおもしろい工夫がなされていました。

研究内容は、「しずおかコスモスプラン」の具現化のために、地区として今まで取り組んできたことや、個人で取り組んでいる実践を聞くことができ、今後の参考になるとともに、自分自身の刺激となりました。

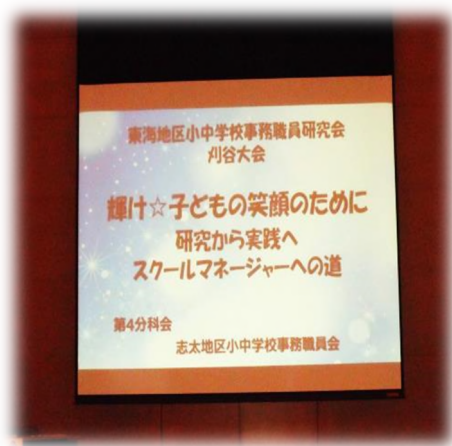
最後に、参加者の方の感想です。

「財務についてのポイントで、財務シート、P D C A R サイクルの意識が参考になりました。」(50代・男性)

「図書館改造の事例は、学校の課題を事務職員が中心となって改善し、その結果たくさんの子どもたちの学びに貢献した、素晴らしい実践だったと思います。」

(20代・女性)

(静岡支部 常任理事 沼津市立金岡中学校 嶋津 文則)



# 研究報告

岐阜県



## 子どもたちの豊かな育ちを実現する学校事務 —学校経営に主体的に参画しよう—

岐阜県小中学校教育研究会事務職員部会

岐阜県小中学校教育研究会事務職員部会では「子どもたちの豊かな育ちを実現する学校事務  
学校経営に主体的に参画しよう」をテーマに、次の3点を重点として活動してきました。

子どもたちが安全で安心して学び生活できる環境を整えるとともに、信頼される学校づくりに努める。

積極的な職務の遂行と研究活動を通して質の高い事務力を養い、資質の向上に努める。

新しい形の学校事務体制を整備するとともに、提案型の事務を確立し、組織的・効率的な学校事務に努める。

今年度も、学校事務体制の強化・学校の組織運営体制の見直しを最重点課題として、共同実施（学校運営支援室）の推進と確立について取り組んできました。主な研修として夏季研修会と事務の日セミナーについて報告します。

### <夏季研修会>

岐阜県教育委員会義務教育総括監 水川和彦様から、校長の強力な相棒の一人として学校経営に参画するためには、学校教育を深く理解する必要があり、その視点についてご講話いただきました。

研究部会より、第四次研究構想についての県事研評価の結果から、共同実施を行なっている人とそうでない人との比較では前者のほうが高い評価となり、組織化が有効であることがわかりました。

前大垣市立安井小学校教頭 河合康満様から、全国公立学校事務職員研究会と教頭時代の体験談から、ネットワーク「つながり」「組織」の大切さについてお話をいただきました。

国立教育政策研究所初等中等教育研究部総括研究官 藤原文雄様から社会の変化と学校を取り巻く状況の変化に対応するために、多職種の人が専門性を発揮して協働することが必要であるなど「チームとしての学校が求められる背景」「チームとしての学校の在り方」「具体的な改善策」についてお話をいただきました。

### <事務の日セミナー>

実践報告では、岐阜県の共同実施の進捗状況、取組内容、課題、共同実施組織と事務研の違いなどについての説明があり、今後、共同実施を広め、内容の充実をはかるための有効な情報や材料になりました。

研修では、全国公立小中学校事務職員研究会の前会長 横山泉様から「チームとしての学校」が求められる背景や在り方についてご講演いただきました。チーム学校を構築するためには戦略の優位性よりもメンバーの納得性を高くする方が効果的であることや事務職員の目線だけでなく「チーム学校」の一員として何ができるのかを考える必要があることなど、ご自身の体験談を通してのお話は、私たち事務職員は、チーム学校の一員として存在しているという意識改革の機会となりました。

研修では相模女子大学非常勤講師 長谷川邦義様から、県事研評価の結果から岐阜県事務研の課題を提起され、課題の解決が「新しい時代における学校事務職員の経営参画」につながるとご講演いただきました。後半では、課題と4つのテーマ（企画委員会参加、事務部位置づけ、課題別マニュアル、広報関係）を関連付けて演習を行いました。



夏季研修会と事務の日セミナーでは、学校経営に主体的に参画するためには、学校教育に吹く新しい風を掴み、対応する能力が必要であり、そのためには個の力によるのではなく、組織として働くことが有効であることが確認できました。また、これは第五次研究構想が目指す、組織化と人材育成によって事務機能と経営企画機能の強化を図ることで、「チームとしての学校」の実現を推進する存在「スクール・マネジメント・ディレクター」へとつながる研修になったと考えます。



## 三重県

### 教育活動活性化に向けた学校事務の実現

三重県公立小中学校事務研究会

#### 【研究部】

「教育活動活性化に向けた学校事務の実現」を研修主題とした「第6期中期研修計画」は、7年目最終年となりました。今年度は「さらなる実践 挑戦 チャレンジ」をテーマに、伝え実践する力をつける研修や、研究大会の還流報告及び個人・組織での実践発表を行い、資質向上をはかる研修を実施しました。また、役員でさまざまな実践を交流し、第6期の中で提案した「教育活動活性化計画」の検証を行いました。その中で、すべての教職員がそれぞれの専門性を尊重し、協働していくことが大切であり、教職員と協働するためには、教育活動そのもの



を理解することと、事務職員の職務を通じた教育活動への参画が必要だとわかりました。全職員で学校を良くし、学校教育目標の実現のために事務職員が参画できる体制づくりを整える必要を感じ、「教育活動活性化計画」が目指すべき事務職員像に近づくための指針となったと考えます。

あわせて、来年度よりスタートする「第7期中期研修計画」を検討・策定し、12月の第3回研修講座にて「第6期中期研修計画のまとめと第7期中期研修計画について」の提案を行いました。来年度からは「第7期中期研修計画」のもと研究・研修を進め、深めていきたいと思えます。

#### 【研修部】

第6期中期研修計画の最終年として、研修主題である「教育活動活性化に向けた学校事務の実現」に向けて今年度は「さらなる実践 挑戦 チャレンジ」をテーマに研究部と連携をとりながら県大会と研修講座を企画・開催しました。

10月の県大会では四日市大学副学長 岩崎恭典さんを講師に迎え「コミュニティ・スクールと学校事務職員」についてご講演をしていただきました。また、午後からは自分たちが経験した災害をもとに危機管理における事務職員としての職務の重要性について熊野支部が発表し、会員と相互理解を深めることができました。

年3回の研修講座では事務職員としての資質向上をめざし、各方面から講師の方を招いての講演や会員による個人実践発表・還流報告等を行いました。

#### 【情報部】

県内支部研究状況調査と、三重県全域で行われている共同実施の実施状況調査を行いました。また、全事研や東海事務研主管の各種調査を各支部・各市町教育委員会の協力を得て実施しました。

広報活動として「三事研広報」を発行し、役員会・委員会の報告、全国大会・東海大会などの研究大会や研修講座の案内、参加報告等を掲載しました。

昭和47年に第1号が発刊されて以来、多くの会員の方に親しまれてきた会誌「ひろば」は今年度第44集を発刊しました。



#### 【「事務の手引」編集委員会】

三重県公立小中学校事務研究会編集の「事務の手引」の改訂を行いました。1月に追録第36号を発行しました。改訂は、給与条例・規則等の改正に伴うものが中心で、わかりやすく、より使いやすい「事務の手引」をめざし、三重県教育委員会など関係機関の協力を得て編集を進めました。

#### 【ホームページ】

ホームページに、組織及び各部の活動内容の紹介をはじめ、「三事研広報」や研究大会の案内、平成26年度の事業報告、平成27年度の年間計画等を掲載し、情報の発信に努めました。

## 子どもの豊かな育ちを実現する学校事務を目指して

静岡県公立小中学校学校事務職員会

### 【専門委員会の活動】

#### 研究推進委員会

今年度の県大会は、サブテーマに「未来へつなげよう！コスモスプランに込めた想いを」と題し、学校事務グランドデザインであるコスモスプランに込められた想いを若手事務職員へつなぐために、事務職員会とコスモスプランの誕生の歴史をわかりやすく解説しました。

未来へつなげていくべきコスモスプランを一人一人が理解し、あるべき学校事務職員像に近づくため、日々の中で実践していくことが大切です。

来年度は、年次別目標を「力量形成」、重点目標を「教育環境」（コスモスプラン「4 活動プラン」より）とし、より具体的な成果を挙げるよう地区、地域及び県大会において研究を推進していきます。

#### 広報委員会

学校事務関連情報の提供や会員相互の情報交換、広報及び研究集録の発行を行っています。主な取り組みとしましては、以下のとおりです。

- ・ 広報「はばたき」の発行（年2回）
- ・ 静教研だより「ときめき かかわり 未来へつなぐ」への原稿提供
- ・ 「学校事務研究集録62号」の発行
- ・ WEBサイトのさらなる充実

#### 学校事務改善委員会

学校事務改善及び処遇改善に係わる活動を行っています。特に学校事務改善のため、静岡県教育委員会事務局との話し合いに向けて企画調整及び事務職員の意見集約等を行いました。

今年度の静岡県教育委員会事務局との話し合いは、標準的職務通知の見直しについて、また、各地域の組織化問題等について積極的な意見交換が行われました。



#### リーダー育成委員会

主幹部の企画運営、学校事務職員リーダー育成のための各種研修会等の企画運営を行っています。

今年度の主幹部研修会では、まず顧問校長である県校長会長の講話があり、県教委からは「新たな地方教育行政制度と学校事務職員への期待」というテーマで講話がありました。そして、主幹だけでなく、次期リーダー育成のために各地区から推薦された事務主査が企画運営に加わり実施した県外事情視察の報告も行われました。

### 【特別委員会の活動】

#### 事務提要編集委員会

「静岡県公立小中学校学校事務提要・諸様式」の編集を行いました。また、併せて、事務提要電子化に向けての取り組みを行っています。

## スマイルプラン総括と次期スマイルプラン策定に向けて

愛知県公立小中学校事務職員研究会

愛知県公立小中学校事務職員研究会（以下「愛知事務研」）は、「アクション！子どもたちの笑顔 つなげる明日へ」を平成23年度より引き続いたテーマとして、今年度も研究に取り組んできました。平成22年度に策定した「愛知における学校事務のグランドデザイン」＝「あい・学校スマイルプラン」（以下「スマイルプラン」という）の推進と実現を重点項目にして、研究・研修、そして支援体制づくりを進めています。スマイルプランについては、その総括を踏まえ、次期スマイルプラン策定に向けて現在検討をしているところです。また、県内のほとんどの市町村において共同実施が導入される中、愛知事務研は今年度を昨年度から引き続き「新しい学校事務職員制度への移行2年目」と捉え、様々な研究と研修、実践を進めています。

### 1 「学校づくりの推進」・「事務機能の強化・高度化」の研究と研修

これからの学校づくりを推進していくため、事務機能の強化・高度化に向け、学校事務の課題を整理し、具体的な実践に向けて研究と研修を行いました。

### 2 現スマイルプラン総括と次期スマイルプラン策定に向けて

スマイルプランの総括と次期スマイルプラン策定に向けて、県大会で発表を行いました。それを踏まえつつ、現スマイルプランで掲げている「子どもたちや地域の人々の笑顔あふれる学校づくり」を念頭に、次期スマイルプラン策定に向けて現在検討を行っています。

### 3 関係機関、支部・市町村との連絡調整

スマイルプラン推進に向け、各事業を通じ、支部・市町村との連携を図り、課題解決に向けて具体的な方策を検討しました。

県下全域で進んでいる共同実施をさらに発展できるようにと、共同実施連絡会と兼ねて7月に開催した市町村代表者会では、「共同実施の今後の方向性」をテーマに、県内の共同実施に関連した実践報告とグループワークを行いました。今後の支部・市町村における共同実施の在り方や事務職員制度について考える場となりました。

また、各教育事務所の次長兼総務課長・支所長代理及び名古屋給与事務所長、愛知県校長会役員にご出席いただき例年開催している学校事務情報交換会では、『「共同実施」と今後の学校事務の方向性』を今年度のテーマとしてワークショップ形式で議論を展開しました。少しでも実現できる手立てについて、それぞれの立場からひざを交えて行った話し合いは、新たな気づきにもつながり、今後に向けて実のある意見交換ができました。

### 4 東海大会刈谷大会の企画と分科会発表

今年度の東海大会の会場担当県として、実行委員会を中心に刈谷市において大会を開催しました。また、愛知事務研研修部が「未来の自分をデザインしよう～私の研修ロードマップ～」をテーマに分科会発表を行いました。





かに  
可児市文化創造センター / 可児市福祉センター

2017.2.3  つなぐ手 ひろがる希望 薔薇(はな)ひらく 学校事務の未来  
東海地区公立小中学校学校事務研究大会可児大会

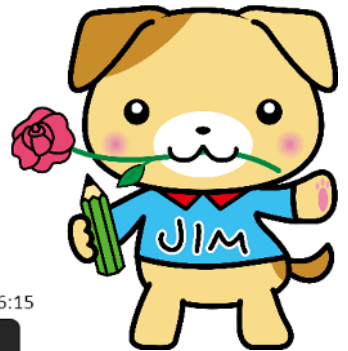
**【大会テーマ】** 子どもたちの豊かな育ちを  
実現する学校事務

**【サブテーマ】** つなぐ手 ひろがる希望  
薔薇(はな) ひらく 学校事務の未来

平成28年度の第48回東海大会は、岐阜県可児市で開催いたします。

可児市文化創造センターをメイン会場とし、開会行事・講演会を行い、午後からは可児市文化創造センターと隣接する可児市福祉センターの2会場で4つの分科会を予定しています。

東海4県をはじめ、多くの皆様のご参加をお待ちしております。



大会マスコットキャラクター  
【じむ犬ローズ】

**大会日程**

9:20	10:00	10:30	11:50	12:00	12:15	13:00	13:15	16:15
受付	開会式	講演会	研究部	引継式	昼食移動	受付	分科会	

講演 ・演題 「ココイチから学んだこと ～誰かのために～ (思い+やり)」  
・講師 カレーハウスCoCo喜番屋 創業者秘書 中村 由美 氏

参加費 2,500円

第48回

かに  
**可児**

平成29年2月3日(金)

大会のご案内